

【広域ブロック自立施策推進調査】

フォローアップ(計画・実績)報告書

調査名		北陸圏の交流ポテンシャルを活かした持続的な地域活性化方策の展開に関する調査	
調査主体	幹事府省(庁)局課名	国土交通省北陸信越運輸局	
	関係府省(庁)局課名等	国土交通省北陸地方整備局、国土交通省中部運輸局、経済産業省中部経済産業局、農林水産省北陸農政局	
調査地域		富山県、石川県、福井県	
調査年度		平成21年度	
配分額		34,405千円	
調査概要	調査内容	<p>本調査は、北陸新幹線の開業を間近に控えた北陸圏において、「北陸」自身がいきいきとした魅力溢れる地域となることにより様々な交流活動の活発化を図るため、その具体的方策として「北陸の地域づくり活動のレベルアップ」及び「北陸の良質な地域イメージの形成」に向けた試行的取組みに関する検討を行うとともに、それら交流による効果を北陸の地域経済に効果的に波及させていくための「北陸の地域づくりと地場産業との効果的な連携のあり方」についても検討を行うものである。</p> <p>○「北陸地域づくり研究会」を設置し、農商工の各分野において北陸の地域づくりに尽力しているキーマン等のネットワーク化を図り、北陸の新しいいきいきとした魅力溢れる地域づくりに向けた、相互学習、実践的研究、人材育成などを試行的に実施し、他者による評価を活用した北陸の地域づくり活動のレベルアップについて検討。</p> <p>○北陸の地域魅力を見え易く「北陸の良質な地域イメージ」を形成するため、「北陸魅力編集委員会」による、北陸の地域魅力の深掘り・編集作業を試行的に実施するとともに「北陸の地域イメージ」を構成する要素を体系的に整理。</p> <p>○上記試行的取組みによって得られた知見や試行的に深掘り・編集した北陸の地域魅力について、地域外の評価者であり、交流対象者でもある首都圏在住者や有識者等を交えたワークショップの開催による試行的な発信により、更なる北陸の魅力向上・地域づくりに関する課題・改善点の明確化。</p> <p>○北陸新幹線により拡大すると見込まれる交流による効果を地域経済に効果的に波及させていくため、北陸の地域づくりと地場産業との効果的な連携のあり方について検討。</p>	
	調査結果(成果)	<p>平成26年度の北陸新幹線金沢開業を見据えた北陸の観光戦略の構築・実践に向け、有識者、北陸3県の行政関係者・観光連盟、北陸の経済団体、観光関係事業者、観光交流や地域づくりに取組む関係者、交通関係事業者、国(国土交通省、農林水産省、経済産業省)の地方支分部局等により構成される「北陸地域づくり研究会・WG」を設立し、観光まちづくりに積極的に取組む北陸各地の現地視察も行いながら、北陸の地域づくり活動のレベルアップを図った。レベルアップに関し、他者による評価を活用すべく「北陸魅力編集委員会・WG」で試行的に作成した北陸魅力情報を首都圏において旅行会社、雑誌編集者、首都圏在住の学生、OL等を対象にワークショップを開催し北陸の魅力向上・地域づくりに関する課題・改善点の明確化を図った。</p> <p>また、有識者、北陸の経済団体等から構成される「新・日本海における北陸圏の経済活性化に関する調査研究会・WG」を設立し、首都圏及び東アジアをターゲットとする地場産業及び観光(インバウンドを含む)の活性化に向けた課題の抽出、具体的な施策提案を行った。</p>	
		調査結果の活用状況	調査結果を受けた具体化
計画	期待される効果等	<p>今後、北陸圏の連携推進体制の強化により、以下の具体化が期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1)農商工等の各分野において北陸の地域づくりに尽力しているキーマン等のネットワーク化の促進 2)更なる北陸魅力情報の編集・発行 3)北陸圏における広域的な観光推進のための枠組みの形成 4)地場産業における東アジア等の外需展開 5)地場産業を活用したインバウンド観光の強化 6)コンテンツ等を活用した北陸圏の魅力発信 <p>なお、本調査の成果について、一般観光関係者に対し「北陸等地域の観光戦略に関する連絡会」を開催し、報告予定。</p>	<p>・「観光戦略セミナー」及び「北陸地域の観光戦略に関する連絡会」等を通じ北陸圏における広域的な観光推進のための枠組みの形成が期待される。</p> <p>・「北陸圏各地の地域資源をテーマ・ストーリーで紡いだ『北陸の魅力情報』の構築・蓄積のための仕組みづくり」の促進が期待される。</p>
	22年度	<p>・平成23年度のデジタルジャパン地方連携事業において、大自然、伝統文化など地域の強みを活かした提案募集を実施した。</p> <p>・北陸経済連合会において、北陸の魅力を効果的に紹介する物語として「北陸物語」が編集され、さらに北陸広域観光モデルコースの改訂版が発行された。</p> <p>・「富山湾・黒部峡谷・越中にいかわ観光圏」(平成21年4月認定)において、体験型メニューをテーマ毎に設定し、着地型旅行商品造成に取り組むとともに観光圏ホームページを作成し、観光情報の発信を実施した。</p> <p>・「能登半島観光圏」(平成21年4月認定)において、観光フェアへの出展を通じてPR事業を実施した。</p> <p>・「越中・飛騨観光圏」(平成22年4月認定)において、観光圏総合案内所を整備し、圏域の情報提供を行うとともに圏域内の周遊連泊促進事業を実施した。</p>	<p>・越中・飛騨観光圏協議会」が発足。</p> <p>・「立山黒部アルペンルート広域観光圏協議会」が発足。</p>

フ ォ ロ ー ア ッ プ	23年度	<ul style="list-style-type: none"> ・平成24年度のビジットジャパン地方連携事業において、大自然、伝統文化など地域の強みを活かした提案募集を実施した。 ・主に中華圏からのインバウンドを推進するため、中部圏と連携して昇龍道プロジェクトを開始した。 ・北陸経済連合会において、旅行社からの要望等に基づき選定され、5つの物語及びそれぞれのモデルコースが盛り込まれた「北陸物語VOL.2」が編集された。さらに北陸観光ポータルサイトとして北陸経済連合会のHPで「北陸物語」サイトの運営が始まった。 ・「富山湾・黒部峡谷・越中にかわ観光圏」(平成21年4月認定)において、一元的に着地型旅行商品の造成・販売、情報収集・発信を行うための中核組織としての観光地域づくりプラットフォームを設立した。 ・「越中・飛騨観光圏」(平成22年4月認定)において、観光圏におけるブランドイメージの確立を行うとともにエリア別の誘客プロモーション戦略の構築を実施した。 ・「立山黒部アルペンルート広域観光圏」(平成22年4月認定)において、旅行者に対するワンストップサービスを提供し、旅行者と地域を媒介とするコーディネーターとしての観光地域づくりプラットフォームを設立した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「昇龍道プロジェクト推進協議会」が発足。
	24年度	<ul style="list-style-type: none"> ・平成25年度のビジットジャパン地方連携事業において、大自然、伝統文化など地域の強みを活かした提案募集を実施した。 ・「富山湾・黒部峡谷・越中にかわ観光圏」「越中・飛騨観光圏」「立山黒部アルペンルート広域観光圏」において、着地型旅行商品の企画・販売、人材育成等の取組が行われた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・北陸経済連合会において、歴史、文化、食、自然など北陸のコア・コンピタンス(強み)を整理した「北陸物語VOL.3」が編集され、さらに「北陸物語フェイスブック」が開設された。 ・「富山湾・黒部峡谷・越中にかわ観光圏」において、観光事業者を主な対象としたおもてなし講座が開催され、「越中・飛騨観光圏」において、高岡～高山間を結ぶアクセスバスの試験運行が行われた。また、併せて金沢駅～五箇山～白川郷を結ぶアクセスバス及び五箇山地域内の観光拠点を連絡する五箇山シャトルバスの試験運行が行われた。 ・さらに、広域的な観光連携を目的として北陸新幹線沿線地域の観光関係者との意見交換会が開催された。
	総括的評価	<p><u>調査目的の達成状況とその要因</u> 北陸地域全体では、北陸経済連合会が主体的となって、「北陸物語VOL.3」、「北陸物語フェイスブック」などにより、北陸地域の観光資源に係る効果的な情報提供が行われた。そして、各地域においては、観光圏等の枠組みによって地方自治体、観光協会、旅館組合等の関係者の連携のもと観光人材の育成、着地型旅行商品の提供、効果的な情報提供等が行われた。さらにビジットジャパン地方連携事業においても、大自然、伝統文化など地域の強みを活かした広域的な提案募集が行われた。よって、北陸新幹線の開業を見据え、北陸の地域づくりのレベルアップ、北陸の良質な地域イメージの形成が図られるとともに広域連携が促進されたことから、当初の期待された効果は達成されたと考えられる。</p> <p><u>調査手法の妥当性</u> 当初の期待された効果は達成されたと考えられることから、調査手法は概ね妥当であったと考える。</p>	